

総評

今期、建設業では新設住宅着工戸数は弱含みで推移したものの、公共工事の請負額は底堅く推移した。製造業は、食品関連は一部で好調な動きが見られるものの、農業機械分野が引き続き需要が低迷し、鉄鋼分野の業績も伸び悩んだ。卸売業は物価高騰による消費者の節約志向が高まっている中、仕入価格の転嫁が課題となっている。小売業では、例年より気温が上昇したため、夏物製品やクーラーなどに動きが見られた。6月に備蓄米が流通したことなどで、ようやく米の価格も下落してきたが、米や卵等の価格高騰により消費マインドを押し下げる要因となった。観光需要も、連休の並びの悪さや大阪・関西万博の影響で関西方面からの来客が減少し、宿泊・飲食・土産品関連も伸び悩んだ。

来期は、今年秋放送開始予定の朝ドラ「ばけげん」効果による観光需要の回復に期待する一方で、コスト増加分の価格転嫁や人手不足など、依然として対処すべき経営課題は山積している。また米国関税の今後の動向についても不透明さを拭えない。

		前期状況 (1～3月期)	今期状況 (4～6月期)	来期見通し (7～9月期)	調査事業所のコメント
建設業		➡	➡	➡	今期は、4月の公共工事請負金額が2カ月ぶりに前年を下回ったものの、新設住宅着工戸数は2カ月ぶりに前年を上回り、底堅い動きとなっている。6月1日から労働安全衛生規則の改正が施行され、熱中症対策の強化が義務化された。作業環境の改善や設備投資、作業時間の見直しにより労働環境の安全性が向上する一方、初期投資や運用コストの増加が特に小規模企業にとっては新たな負担となっている。 来期は、猛暑時の休憩増加や作業時間の制限により、工期遅延が懸念されている。
製造業		➡	➡	➡	今期は、農業機械分野をはじめとした需要の停滞が続く中で、引き続き原材料価格の高騰、人件費の増加、金利負担等による経営の圧迫が続く状況。また、米国の鉄工・アルミニウム製品に対する追加関税措置拡大など直近での影響は不透明なものの今後の懸念要素として挙げられる。昨今の平均気温上昇もあり、来期は熱中症対策義務化など社会環境が変化する中で職場環境の整備が急務となっている。
卸売業		➡	➡	➡	今期は、設備投資需要が堅調な機械器具関係は好調なものの、仕入価格の高騰にあわせ消費者の飲食料品への節約志向が高く、食料品関係が振るわず、ほぼ横ばいの状況となった。販売先に仕入単価上昇分の価格転嫁を受け入れてもらえないという声も聞かれた。 来期は、法改正で職場における熱中症対策が義務化されたことに加え、例年と比べて気温が高いため、冷却ファンのついた作業着など、熱中症対策の商品を扱う一部事業者には復調の兆しがみられる。
小売業	衣料品	➡	➡	➡	今期は、4月から夏物を記録したことなどにより、例年と比較して春服の動きが低迷。入学式や入社式で着用する高価格帯のフォーマル服も、カジュアル思考の拡大や一畑百貨店の閉店による販売場所の減少、物価高騰の影響といった外部要因で苦戦している。 来期は、引き続き生活用品等の物価高が続くと見込み、洋服類の購買意欲の低下が懸念されるなか、夏服のセールや固定客向けの販促に注力し、来店促進と売上回復に期待する。
	家電	➡	➡	➡	今期は、猛暑が予想される中、5月頃からエアコンの買い替え等の動きが出始め、6月には一部メーカー商品について在庫切れが出始めた。設置工事とセット販売となるエアコンは電化製品では利益率が高く、性能も著しく高くなっており火気の心配もないため高齢者を中心に通年商品として定着してきた。 また、テレビ、洗濯機の動きは鈍いものの冷蔵庫に一定の動きがあり、6月に開催した合同展示即売会では客入り、販売額ともに目標を上回った。 来期は、夏本番を迎えるにあたり引き続き夏物商品の需要継続に期待する。
	自動車	➡	➡	➡	今期は、メーカーにより状況は異なるものの、半導体不足や部品調達の遅れも徐々に回復傾向にあり、新車の供給も安定しつつある。また、新型車の導入等の影響も重なり総じて新車登録台数は増加。 来期は、物価上昇による消費マインドの弱さが目立っているものの、新車の需要は新型車を中心に底堅く、登録台数が伸びるものと予想。
	スーパー	➡	➡	➡	今期前半は気温が穏やかで日照が多く、野菜が豊作となり価格が大幅に下落。一方で、米や卵などの「物価の優等生」も値上がりし、消費は冷え込み傾向にある。備蓄米については順次店頭に並んでいる状況。 来期は食品2105品目の値上げに加え、早い梅雨明けと高温の影響で生鮮品の値上がりや猛暑によって来店頻度が減少する可能性も考えられ、消費の低迷が続くことが懸念される。
	特産品	➡	➡	➡	今期は、4月に物産販売施設がリニューアルオープンしたことで、地元客の来店により前半は好調であった。しかし、大型連休も含め、大阪・関西万博の影響が関西方面からの観光客が例年より少なく、土産物の売上は低調に推移した。定期的なクルーズ船の就航によりインバウンド観光客による工芸品の売上は好調であり、本格的な夏休みシーズンを迎える来期も期待したい。
サービス業	飲食	➡	➡	➡	今期は、歓迎会やゴールデンウィークがあったことから、好調に推移した店舗があった一方で、飛び連休のため前半の入り込みが前年比マイナスとなった店舗もあった。材料、人件費、エネルギー価格高騰に加え、物価高の影響から個人消費の落ち込みが収益に影響を与えている。また、米不足と価格上昇が経営上の問題となっている。 来期は、夏休みシーズンに入ることから、各種イベント等をきっかけに集客アップ、収益確保に期待。
	旅館・ホテル	➡	➡	➡	今期は、ゴールデンウィークが飛び石連休で分散したことや大阪・関西万博の影響により、宿泊者数は前年同期比微減となった。物価上昇による消費者の旅行控えも進んでいる。一方、米子ソウル便増便により、外国人観光客数は増加傾向にある。 来期は、コンベンション、高校総体、花火大会など宿泊が増える見通し。加えて、秋から始まる小泉八雲とセツのドラマの特需に期待する。
	運輸・旅客	➡	➡	➡	今期の旅客運輸業では、燃料費高騰や大阪・関西万博などによる観光客の減少傾向が見受けられた。また、荷物の受注が少なく全般的に出荷量が減少傾向にある。慢性的な人手不足・人件費高騰により、業界を取り巻く環境は厳しさを増し、ドライバー不足による輸送能力低下により受注の取りこぼしが生じている。 来期は、様々なコスト上昇の影響が予想され出荷量が不透明な状況が見込まれる。旅客業では夏季旅行需要に期待する。

※売上の前年同期比について ➡ ➡ ➡ により表しています。